

青空号の測定結果

柳島や前田も環境基準を下回る

一酸化窒素は高濃度を測定

…名古屋、大阪に匹敵…

市内の大気汚染（イオウ酸化物）は、毎年すこしづつ減少しています。測定は富士保健所、元吉原中学校など9カ所の固定局で常時行なっています。しかし、このほかの地区の汚染調査は、これまであまり実施していませんでした。そこで市内全体の汚染状況を知るために、公害測定車の「青空号」が各地区を回って測定を行なっています。

現在は富士と富士宮の境界（天間）でオキシダントを中心に測定していますがこのほど今年の1月から5月までの測定結果がまとまりましたのでお知らせいたします。調査地点は柳島の東芝寮前と前田の富士化工前、富士と沼津の境界にあたる植田の3カ所です。

柳島では1月17日から2月15日までの30日間に、イオウ酸化物、一酸化窒素、二酸化窒素の3物質を測定しました。この結果、イオウ酸化物の期間平均値は0.04 PPMでした。この測定値は、常時測定地点の勤労青少年会館と同じくらいで、国が示している環境基準値の0.05 PPM以内にあります。しかし、市内全体の平均値は0.037 PPMですから、すこし高くなっています。

大気汚染は気象条件、特に風の方向

に大きく左右されるものですが、測定地点の風向は、発生源工場の多い北からが50%以上も記録されました。このようなことから年間の濃度を予測すると、柳島地区においてはこれ以上高くなることは考えられません。

窒素酸化物は、一酸化窒素が0.026 PPM、二酸化窒素が0.044 PPMで、国道1号線のアストロボール付近に比べかなり下回っていますが、名古屋、大阪に匹敵する汚染です。

前田では3月1日から3月29日まで行ないましたが、測定物質は一酸化炭素を新たに4物質について調べました。イオウ酸化物は期間平均0.04 PPMで、柳島と同じくらいの汚染度です。また、一酸化窒素も0.02 PPM、二酸化窒素0.043 PPMで、同じような汚染状況です。

なお、一酸化炭素は、測定地点が自動車の通行が比較的少ない所なので、2.31 PPMと環境基準の10 PPMを大幅に下回っていました。

植田地区の測定は、4月11日から5月9日まで行ないました。測定物質はオキシダントなども入れて8物質になりました。

測定物質の期間平均値は、イオウ酸化物が0.026 PPM、浮遊粉じん0.034 mg/m³、一酸化窒素0.012 PPM、二酸化窒素0.029 PPM、全炭化水素0.68 PPM、飽和炭化水素0.38 PPM、一酸化炭素1.69 PPM、オキシダント0.037 PPMで各項目とも全体的に低い値を記録しました。

イオウ酸化物の0.026 PPMは、常時測定地点の大淵地区に相当します。なお、一酸化炭素、炭化水素については、測定場所が田園地帯のために、低い濃度が記録されました。



【富士中学校の観測小屋】

固定測点に観測小屋を

…同じ条件で測定はじめる…

大気汚染の観測を同じ条件のもとで行なうため、伝法小学校、今泉小学校、大淵中学校、富士中学校、鷹岡公民館の5測点に観測小屋を建設しました。

現在の観測室は、法律で定められた基準以内に空気の採取位置がありますが、建物の2階や3階、4階とまちまちです。しかし、空気の採取位置がまちまちだと、濃度が異なり、

測定結果の比較や解析をする時に、問題点が多くあります。

このようなことから新しい観測小屋の建設を行ないましたが、測定は9月中旬から実施します。

観測小屋はブロック製で、室内の温度を下げるためにクーラーも設置しました。また風向風速は地上から6mの地点で測定します。